令和８年９月７日発行
第５号

城東 未来

都立城東特別支援学校長
秋本　友美

学び得た力を地域（社会）へ

～学校で育む自己選択・自己決定・意思表出の力の獲得を通じて～

校長　秋本　友美

この夏は全国各地で地震や豪雨による災害が発生し、改めて自然災害への備えの重要性を感じる機会となりました。令和８年７月 28 日に熊本地震が発生し、同８月 13 日に、千葉県を記録的豪雨が襲い、多くの方が被災されました。心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早く平穏な生活に戻れますことを祈念いたします。

10 月 16 日実施の「全校引き取り訓練」の前哨として、７月末日、情報掌握、判断・指示、各実働【安全管理・誘導等】班のシミュレートを実施し、外部委員から助言を得ました。

災害時には、「ライフラインがストップする」ことを想定し、御家庭におかれましても、「引き取り訓練」を契機に、❶学校へ迎えに行く際の交通ルートのシミュレート❷避難場所・連絡方法・家族内でのルール確認をぜひ、再考してください。まずは「自助・自衛」です。

コロナ渦でよく耳にした「フェーズ」という言葉があります。「危機意識の段階を一つ引き上げる」校長自身、自宅・学校・通勤途中で被災した際の「自衛」を見直したところです。

さて、９月１日、始業式後には、PTA から頂いた「学びを後押しする教具」の「贈呈式」を行いました。始業式・贈呈式の参観の御案内を PTA が企画してくださいました。今後も機会があれば、儀式的行事への参観を保護者の皆様へ御案内します。

２学期は一年の中でも最も長い学期です。子供たちの学習の成果や成長の姿を、これまで以上に発信できる機会にしてまいります。そのためには、日々の授業への取組が何より大切です。１学期の学び、新しい学び方等、学習の一部の様子（裏面）を御覧ください。

毎日の学習や活動の積み重ねにより、サイン・言語・ICT 機器等を通じて、意思疎通を図ったり、確認したりする。この好循環を経て、子供たちは、「自己選択・自己決定」につながる力を獲得していきます。

一連の学習の成果は、学校だけでなく、地域・社会において活用・発揮できること。このことからも、学校だけではなく「地域（と言う教材）」での学習の場を広げていきます。「地域学習の充実」を掲げている所以です。

「コミュニケーション能力の向上と伝達手段の獲得」を深められるよう、子供たちにとって「学び多き秋」にしてまいります。



【小学部５年　地域交流学習】
子供たちが、図工で製作・完成した作品を持っていき、「カフェ 06（地域の店）」のスタッフへ渡すことができました。【9/２９まで展示】

学習に向かう環境整備、児童の意思表出（小学部の実践）

小学部１年　学年主任　池亀明花主任教諭

４月に入学した小学部１年生は、保育園や幼稚園、療育機関との違いに不安を感じているように見えました。そんな子供たちが安心して過ごし、学校が楽しいと感じ、教員や友達に自分の思いを伝えることができるよう、教室内の環境を整えています。見通しをもつことを促し、思いを表現することの良さを成功体験として積み重ねられるように支援することで児童の主体性を高めていきます。日常生活や他者との関わりの中で大切な力になります。それらの力を活用して、小学部高学年や中学部では自分からやりたいことや気持ちを伝え、他者と協働する基礎を積み重ねていきます。





パーテーションを使用し、自分の学習に集中しやすい学習環境を整えています。

いつでも見えるところに絵カードを貼り、教員に渡す、読んで伝えるなど、相手に伝える手掛かりとしています。



朝の会では、一日の予定や給食、下校方法などを確認し、楽しみなことを発表します。
帰りの会では、一日を振り返り、頑張ったことや楽しかったことを発表します。

中学部３年間の作業学習（中学部の実践）

中学部３年　学年主任　須黒主任教諭

中学部では週に１回、３時間の作業学習を位置づけています。中学部１年生は学年で「清掃班」の作業に取り組んでいます。中学部２、３年生は縦割りのグループで、「食品加工班」「オフィスワーク班」「手工芸班」に分かれて、作業に取り組んでいます。

環境整備の面では、作業に取り組む机に必要な道具のみを置いて集中しやすくしています。取り組みやすい環境を整えることで、自分のやることが分かって主体的に取り組む姿勢や、挨拶・「できました」の報告・「手伝ってください」の依頼など自分の状況に応じた意思表出につながっていきます。

中学部１年生では基礎の定着を図り、中２，３年生では他者との共同・協同する意識（良い手本となる仲間がいる、次の人に自分が終えた仕事を引き継ぐなど）を高めています。中学部３年間で身につけた「自分の役割に責任をもって取り組む」力を、高等部での学習や高等部卒業後の就労、働く意欲につなげていけるように引き続き指導してまいります






【未来後記】

自分の気持ちや願いを相手に伝え、相手と折り合いをつけながら生活していく力は、障害の有無にかかわらず、全ての人にとって大切な力です。言葉で伝えるのがよいのか、メールや手紙がよいのかなど、相手に最も伝わる方法について、皆様も考えたり悩んだりすることがあるのではないでしょうか。

今月号では、児童・生徒の意思表出について紹介しました。自分の気持ちをどのように伝えるか、また、どの方法が自分に合っているかを体験的に学びながら、一人一人の意思表出の方法を広げ、「自己選択・自己決定」の力を育んでまいります。

副校長　和田　大